

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.4
Q1 室内環境					0.39		-		3.4
1 音環境				3.3	0.15		-		3.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.3	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.61		-		
2 界壁遮音性能		[事]界壁遮音性能Dr値:40		4.0	0.39		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-		
1.3 吸音		[事・店]床(タイルカーペット)、天井(岩綿吸音板)の2面に吸音材を使用		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				3.1	0.35		-		3.1
2.1 室温制御				3.3	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		[事]冷暖同時、インテリA・ベリメター空調系統分けを計画		4.0	0.37		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.6	0.25		-		3.6
3.1 屋光利用				3.0	0.30		-		
1 屋光率				3.0	0.59		-		
2 方位別開口							-		
3 屋光利用設備				3.0	0.41		-		
3.2 グレア対策				3.0	0.29		-		
1 屋光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度		[事]平均照度612lx		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御		[事]1作業単位で制御が可能		5.0	0.26		-		
4 空気質環境				3.7	0.25		-		3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		建築材料は、告示対象外の建材及びJIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.6	0.30		-		
1 換気量		[事・店]基準の1.4倍の換気量		5.0	0.34		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.34		-		
4.3 運用管理				3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		3.5
1 機能性				3.1	0.40		-		3.1
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.35		-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30		-		
1 広さ感・景観		[事]天井高:2.8m [店]天井高:3.3m		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		[事]執務室の1%以上のリフレッシュスペース確保、自販機設置		5.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.7	0.30		-		3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		事務室:床タイルカーペット6.5(OA707-H100)、壁ビニルクロス張り(PBt12.5)、天井岩綿吸音板t15		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、冷媒管CUP(C)、Eは不使用。		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				4.0	0.20		-		
1 空調・換気設備		吊配管の採用、災害時に電源供給できる空調・換気設備がある。		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電機、受電設備の二重化、浸水対策の実施、異なる変電所からの受電		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、異なる電話局からの引き込み、浸水対策の実施、災害時における情報入手手段の確保		5.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	[事・店・工]階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[事]0.1≤壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		[事・店・工]床積載荷重4500M/m2以上 (地震用の構造計算に割増し相当が無い場合)	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。 植栽により、良好な景観を形成している。 人通りの多い前面道路からの見え方について検証を行い視点場からの良好な景観を形成している。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.80	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		給気スリット付きの自然換気窓にて通風利用している。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BE][BE _m] = 0.61、LED照明設備を採用。	4.9	0.50	-	-	4.9
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSを採用している。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		自動水栓に加えて、節水型便器を採用している。	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減	BCP鋼材の採用、合成スラブデッキの採用、主要鉄骨F=325以上	4.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:ビニル床材、天井:岩綿吸音板、床タイル	5.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OA707-の採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=73%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場及び管理用車両の駐車スペースを確保し、2ヶ所車両出入口のうち1ヶ所を出口専用として、周辺道路の渋滞緩和対策としている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	JIS照度基準を参考に、照明目的に合った照度を設定している。広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	